瀬谷中だより　３月号　令和４年３月８日

＜学校教育目標＞
○ 自ら学ぶ力の育成と基礎学力の定着　〔知〕
○ 他者を思いやり、礼儀や規律を重んじる態度の育成　〔徳〕
○ 生命を尊ぶ健康な心と体の育成　〔体〕
○ 社会に貢献し、様々な人と関わり合う態度の育成　〔公・開〕

発　行　横浜市立瀬谷中学校
校　長　熊野　一隆
住　所　瀬谷区中央５－４１
TEL 301-0096　FAX 301-0099

壁を乗り越え『節』を刻んでいこう

校長　熊野　一隆

寒さが緩み、本格的な春が訪れる３月は、学校の卒業式や新年度に向けた引っ越しなど生活に変化が訪れる月でもあります。気が付けば「桃の節句」の時期も過ぎ、１年の時の流れの速さをしみじみ感じる日々です。

「桃の節句」は、七草・端午・七夕などと並ぶ五節句のひとつです。本来は「上巳の節句」といい、３月の最初の巳の日を指していましたが、のちに３月３日になりました。 江戸時代に”上巳の節句”が五節句のひとつに定められ、５月５日が男の子の節句であるのに対し、３月３日は女の子の節句となったのです。その後、桃やひな人形を用いることから、「桃の節句」「ひな祭り」と呼ばれて定着していきました。「桃の節句」と呼ばれるようになったのは、旧暦の３月３日の頃に桃の花が咲くことや、桃は魔除けの効果を持つと信じられていたことに由来しています。ひな祭りには、子どもに災いが降りかからないようにという家族の願いや、人生の幸福が得られるようにという気持ちを込めて、ひな人形を飾るようになったようです。

２月の中学校の大きな行事といえば「共通選抜学力検査」、いわゆる「高校入試」が２月１５日(火)から始まりました。生徒によっては「特色検査」といわれる試験も受検しなければならず、３年生の多くは、この日まで随分と気をもみ、学習を進めてきました。当日は２４０名の３年生が受験し、無事に終了することができました。新型コロナウィルスの影響で各中学校数名程度が入試当日受検できず、２５日(金)に追検査を受けています。できるだけ多くの３年生が、希望する進路先に決まっていくことを祈るばかりですが、毎年悔し涙を流す生徒がいるのも事実です。

話は変わりますが、年末からの厳しい寒さが和らぎ、昼間には暖かい日が続き、陽の光がありがたく感じる日が増えてきました。今シーズンの雪の多さは記録的だったようです。札幌・函館の両市を結ぶ路面電車の線路に積もった雪を払う「ササラ電車」のニュースを以前見ました。車両に取り付けられた「ササラ」と呼ばれる装置は、細かい竹を束ねた「ブラシ」になるもので、回転させて雪を吹き飛ばします。節のある竹はしなやかさがあり、簡単には折れません。節目をつくる営みは、植物の成長からすれば、上方に伸びず、力をためるように見える現象ですが、節目があることで、外部からの力をうまく逃がし、元の状態に戻ろうとするしなやかさを備えることになります。また、再び目を出すこともでき、より大きく成長することができるようになります。「竹にとって、節目は成長の軌跡であると同時に再出発の拠点となります」とある識者は語っています。私たちの生活の中でも、立ちはだかる大きな壁を乗り越えたとき、人として一つ心の中に強い『節』ができるのだと思います。進路の悔し涙を流したとしても、自ら苦労し「辛い思いをしながら成長への力を溜め、心の中で育んだ『節』」があれば、次に向かって進んでいくことができるのだろうと思います。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、１・２年生のみなさん、進級おめでとうございます。４月には、全生徒が新たな場所で、生活を送ることになります。苦難にひるまず、常に挑戦の姿勢を忘れず、充実した日々を送ってください。

文化祭

今年の文化祭は、瀬谷中オリンピック、黒板アート、階段アート等、これまでにない企画を行いました。クラスで団結し、先生方も一丸となって文化祭を楽しんでいる様子が多くみられ、大変充実感を感じています。子どもたちにとって、中学校生活の大きな思い出の一つになりました。

瀬谷中オリンピック

黒板アート

階段アート